清荒神・売布・中山エリア

古来より有名な寺社がのこる地域で、市内外から多くの人が訪れます。また、住宅開発も進み、歴史ある景観と現代の街並みが融合しています。

⑫ 中山荘園古墳

（国史跡）

八角形を呈した全国的にも非常に珍しい形の古墳。７世紀中頃に造られたと考えられている。
八角形の古墳は奈良県明日香地方を中心とする天皇陵にみられる形とされており、なぜ当地にこのような古墳が造られたかは分かっていないが、この地域の歴史を考える上で重要な古墳とされている。

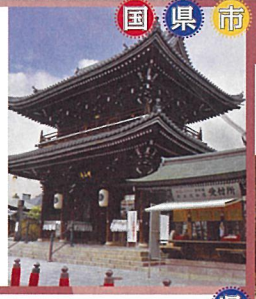
⑬ 清荒神清澄寺

（本尊:国重要文化財・自然林:市天然記念物 他有）

宇多天皇より「日本第一清荒神」という称号を与えられ、「かまどの神様」として信仰を集めている。
本尊は大日如来坐像。

⑭ 中山寺

（本尊：国重要文化財・ 本堂：県有形文化財・星下り祭：市無形民俗文化財 他有）



聖徳太子が開いたと伝えられ、安産信仰や西国三十三所 24 番札所として有名で、本尊の十一面観音菩薩立像をはじめ、多くの文化財がある。

ひと足のばして ……

⑮ 白鳥塚古墳

（県史跡）

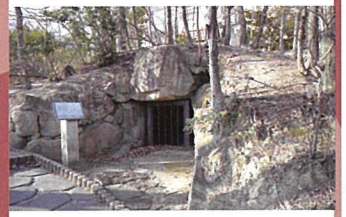
中山寺の境内の中にある横穴式石室の古墳。
7 世紀初め頃に造られた豪族の墓と考えられている。石室内には大きな家形石棺が残る。

⑯ 中山寺奥の院

中山寺から 18 丁に旧寺地があったとされる。付近に瓦片が散乱する場所もあり、大悲水と白鳥の窟など中哀天皇の皇子にまつわる伝承も残る。大悲水は厄除けの水として人々の信仰を集めている。

⑰ 中筋山手古墳群

（１号墳：市史跡）



長尾山丘陵に造られた群集墳のうち西端に位置する。１号墳は６世紀末頃に築造された横穴式石室を持つ径 15 m程の円墳で、公園の中に保存されている。

⑱ 旧清遺跡

（市史跡）

清荒神清澄寺の旧寺地と考えられている遺跡。平安時代後期に建立され、戦乱等で火災にあい、江戸時代初めに現在の場所に移ったとされる。

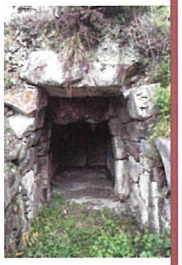
⑲ 売布神社

（社号標石:市有形文化財・社叢:市天然記念物）

「延喜式」記載の神社で食物と衣服の神様を祀る。江戸時代には貴船大明神と呼ばれていた。

⑳ 中筋山手東古墳群

（２号墳：市史跡）



6世紀後半～7世紀前半に造られた群集墳。1～3号墳が残る。
２号墳の石室は玄室の中央に間仕切りがある複室で、希少な形状をしている。耳環が8点出土。

㉑ 八王子神社

（板碑：市有形文化財）

阪神・淡路大震災で被害を受けたが、平成14年（2002）に再建された。境内には正応三年（1290）の年号が入った市内最古の板碑がある。

㉒ 中筋八幡神社

（本殿：国重要文化財）

室町時代に建立された檜皮葺の本殿は、阪神・淡路大震災の時に倒壊したが、平成８年（1996）に残った部材で修復した。

ちょこっとブレイク ②　たからづかの民話『冥土へ行ってきた話』

数百年むかし、清澄寺に尊恵上人という偉いお坊さんがいました。ある夜、上人の前に男が現れ閻魔大王からの書状を差し出しました。それには「閻魔城で十万人の僧を集め法華経を転読するので参列せよ」と書かれており、上人は「私の命もここまでか」と悟りました。ところが、閻魔大王は参列した上人に「そなたは生前の行いが大変立派だ。再び現世に帰り清澄寺で心して学ぶよう」と言い、「この経文は山中の宝塔の下に埋めよ」と、銀の箱に入った経文十一巻を贈りました。その後、上人は人々に教えを説き続け、しばらくして有馬の清涼寺に移りました。ある日、上人が教えを説いた帰り道、宝塔の下から湯気が上がっているのを見つけて掘ると、お湯が湧きました。このお湯が有馬温泉の元と伝えられています。その二百年後、村人が小山の下から経典などが収められた銀の箱を見つけ出し、修行僧達の大事な学問書となったといいます。